

樹木の驚きの秘密

岡田 敬子 (千葉市)

日 時: 2018年12月16日(日) 10:30~12:00 天候: 晴れ

参 加 者: 11名(大人9名、子ども2名)

担当指導員: 佐野由輝・岡田敬子 参加指導員: 木下順次、晝間初枝

この冬一番の寒さ、参加者が来てくれるか心配していたら元気の良い男の家族が来てくれた。開始時間になりリピーターの人たちでしたので、挨拶をして森の入口で早速観察始まり、男の子(5才)を助手に任命、皆さんに串を配ってもらう。通路の土と森の中の土を刺して硬さの違いを調べる、通路は3cm、森の土は20cm以上の深さ。次に2つの容器にそれぞれの土を入れ重さを比べてもらう。森の土のほうが軽い。続いて通路と森に深さ3cmほどの穴を掘り、穴の中に水をかける実験。通路の水はなかなか無くならないが森の土はすぐに水が無くなった。落ち葉などが積り隙間があり水が通りやすい土であることがわかった。

杉林は9月の台風で半分くらいが折れ、材木屋さんのように丸太が積まれている。年輪や枝の痕などよく観察できた。大草の谷津田で一番大きいケヤキの周囲を測る。助手にメジャーを押さえてもらい計った結果、2m75cm 何年森を見てきただろう。めじろんぼを右に上がりシラカシの木の下でシラカシの赤ちゃん探し。助手に楊枝で作った赤い旗を配ってもらい、見つけた赤ちゃんの隣に刺してもらった。わずかな範囲で100本以上の赤ちゃんを発見。木は子沢山ということがわかった。日本で一番大きい鹿児島県の蒲生の大楠の木の幹周りは24m とのことロープを使って皆で木を囲み太さを体感してもらった。下畑で炭焼き窯の跡を観察し、炭の材として使われたイヌシデ、コナラの萌芽更新の話をした。階段のところで水の吸い上げ実験。階段の下でジュースにチューブを入れ階段の上にいる助手に吸ってもらった。皆が見守る中3m、代わってお父さんが6mでした。理論的限界値は10m。日本で一番高い木は62m、世界で一番高い木は120m。樹木はどのようにして水を吸い上げているのでしょうか。最後に、苔むした丸太の幹の上に芽生えた木の赤ちゃんを観察しながら森の更新の話をした。



日本一の幹周りは？



水の吸い上げ実験